



# 日進北小だより

令和7年3月3日 3月号 第11号  
電話 048 (663) 1842 FAX 048 (663) 9884



<https://nisshinkita-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標：心身ともに健康で、自ら学び、自ら考え、判断し、行動できる子どもを育成する  
～宇宙一 すてきなあいさつ 日北っ子～

児童の学校生活の様子を、  
随時更新し掲載しています。  
どうぞ、ご覧ください。

## 夢いっぱいの日北っ子 ～会話で育む自己肯定感～

校長 寺越 崇征

いよいよ年度の最終月、3月を迎えました。別れと出会いの季節、時の流れをより実感できる季節です。いくつかの教室では、手作りの「あと〇日」ボードが掲示され、今のクラスでの残りの日々を名残惜しんでいる様子が見られます。

### 【6年生との会食会で…】

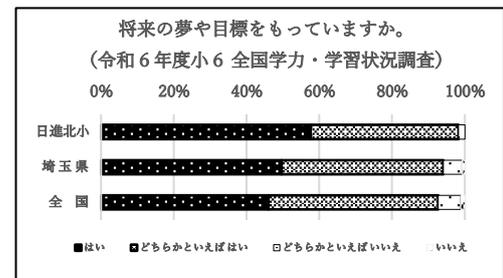
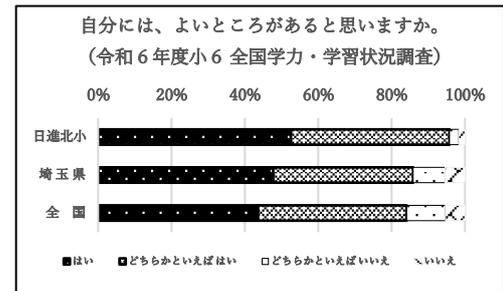
1月末から始まっています。日頃、校長室で独りで検食をしている私にとって、8名もの6年生と一緒に給食をいただける、夢のような時間です。会食会では私から子どもたちに次の3つの質問をしています。

「①自分のよいところはどこですか？」

「②将来の夢はなんですか？」

「③夢の実現に向けて頑張っていることはなんですか？」

みんなしっかりと夢をもっていて、自分の言葉で語ってくれます。その表情が、私は大好きです。つい食べるのを忘れて、夢中で会話をしてしまいます。自信満々に答える子、ニコニコ笑顔で答える子、はにかみながら答える子、どの子どもとても頼もしく感じます。夢をしっかりともてることは、自己肯定感が十分に満たされている表れでもあります。近年、子どもの自己肯定感が低下していると言われていますが、今年度の調査結果を見ても、日進北小学校の子どもたち、とりわけ6年生は、自己肯定感が高いことがわかります。



### 【家庭での会話の大切さ】

自己肯定感とは、安心して生活できる環境の中で、自分の思いを自分の言葉で語ることを繰り返し、それを友人や大人が認めることでゆっくりと育まれていきます。言語化して聴いてもらうことで自分の考えが整理され明確になります。とはいえ、言語化がうまくできない子もいるでしょう。何を話していいかわからず黙ってしまう子もいるでしょう。質問を畳みかけたりせず、沈黙は伸びしろと考えて、焦らずに待ってあげてください。何も聴けないこともあるかもしれません。子どもが話したくなった時がチャンスです。そこを逃さずに聴いてあげてください。続けていくと次第にどんどん話せるようになります。聴き手は共感しながら聴くことが基本ですが、何でも鵜呑みにするのではなく、よい点を認め、課題があれば修正する方法を自分で導き出せるように、一緒に考えることが大切です。この関係が自己肯定感向上の種になるわけです。もちろん、学校でも子ども達の話をしっかり聴いていますが、1対1での会話を十分にできるのは、やはりご家庭にはかないません。

なお、言語化しようとする経験が少ないと上手な会話も身に付きません。そのまま成長すると、「べつに」「はあ?」「どうでもいいし」など、最低限の言葉で会話を遮ろうとすることが多くなります。お子さんの口からこのようなセリフが出てきたらご注意…、ご家庭でじっくり会話をする機会を増やしてみてください。

### 【♪希望が夢が この園の 花とかがやく 春がある♪】

「あと〇日」がゼロになるとき、それは今の学年のゴールであり、その先に続いていく「自分の夢をかなえるため」の世界のスタートにもなります。間もなく日進北小学校にも春が訪れます。校歌でも歌われているように、日北っ子みんなの夢がたくさん輝く春になるといいな、と心から願っています。

